

## マーケット概況（2022年3月）

3月の債券相場は、前月末にウクライナに侵攻したロシアへの制裁強化による景気下押し懸念を背景に買い先行で始まり、10年365回債の利回りは前月末比0.005%低下の0.175%で取引を開始した。2日にはロシアのデフォルト危機が意識されて10年365回債の利回りは0.130%まで低下し、債券先物3月限は同日夜間取引で一時151円26銭まで上昇した。しかし、米国がロシア産原油の禁輸を決定したことや2月米国CPIが予想を上回る伸びとなり米国のインフレ懸念が高まったことに加え、10日開催のECB理事会で金融緩和の段階的縮小が決定されたことも相俟って相場は下落に転じた。さらに15～16日開催の米国FOMCで今後の利上げペースの加速が示唆され、21日にパウエルFRB議長が5月のFOMCにおける0.50%の利上げを排除しない考えを示すと下げ幅を拡大した。28日には10年365回債の利回りが0.250%と2016年1月15日以来の水準まで上昇したが、同日午前と午後2回の指値オペが実施され、29～31日にかけて初の連続指値オペが通告されると同ゾーンの金利上昇は抑制された。一方、超長期ゾーンの利回り上昇が続き、債券先物6月限も一時148円72銭まで下落する場面があったものの、30日の通常オペで買入額の増額と対象年限の拡大が行われ、午後にも追加買入が実施されたことから買いが優勢となり、結局10年365回債の利回りは0.210%で2021年度の取引を終えた。

### <短国市場>

3M金利は、入札は最高落札利回りが-0.08%台でスタートしたが、4.3兆円程度の償還額に対し発行額が5.7兆円程度と大幅な発行超過となったことから、17日の3M1067回債入札では-0.0752%に上昇した。月後半には、国庫短期証券買入オペが2兆円と高水準であったことや、年度末の担保需要を背景に買いニーズが強い展開となり、25日の3M1069回債入札では-0.0800%に低下し、最終的に-0.108%で取引を終えた。6M金利は入札は最高落札利回りが-0.07%～-0.08%台、1Y金利は-0.05%台であったが、1Y1066回債は投資家需要や国庫短期証券買入オペ増額を背景に低下し、セカンダリー市場では-0.073%で取引を終えた。

### <一般債市場>

10年政保債の起債スプレッドは国債カーブ+4.0bpと前回(9月債)比同水準となり、供給量が限定的なことから需要は旺盛だった。10年地方債は国債カーブ+6.0bp、5年地方債は同+5.0bpといずれもスプレッドが維持され順調に消化された。既発債は、国債金利の高いボラティリティ水準が継続し先行き不透明感が払拭し難い状況の下、一部の銘柄で水準やスプレッドの調整が意識された。社債の発行額は、発行額の削減や起債を延期する事業会社が相次ぎ、月間5,103億円と前年同月比3,717億円減少した。SDGs債関連では、調達資金を低炭素化・脱炭素化への移行事業に充てるトランジションボンドを、日本航空が航空業界では初めて、東京ガスが都市ガス事業者では初めて発行した。

### ◎ 主要債券月間四本値

銘柄	始値	高値	安値	最終出来値
#365	0.175(1日)	0.130(2日)	0.250(28日)	0.210(31日)
#364	0.160(1日)	0.120(2日)	0.245(29日)	0.205(31日)
#355	0.055(1日)	-0.015(2日)	0.180(29日)	0.140(30日)
#150(5Y)	0.005(1日)	-0.025(2日)	0.065(29日)	0.025(31日)
#179(20Y)	0.645(1日)	0.600(7日)	0.845(29日)	0.670(31日)
#1061-#1068 TDB(6M)	-0.093(7日)	-0.093(7日)	-0.073(24日)	-0.073(24日)
#1062-#1069 TDB(3M)	-0.091(1日)	-0.108(31日)	-0.077(17日)	-0.108(31日)